

Xiaomi MiMo-V2.6-Pro 徹底解剖

1兆パラメータ級オープンウェイトの最前線と日本企業への戦略的含意

STRATEGIC INTELLIGENCE REPORT
2026年9月発行

The Disruption (性能の
衝撃)

AA Index 46点

(オープンウェイト世界第1位)

1.02兆パラメータ (アクティ
ブ42B) のスパースMoE。ネイ
ティブ全モーダル対応で、オ
ープンモデルの頂点を更新。

Radical Transparency
(透明性とコスト破壊)

\$0.87

(出力100万トークンあたり)

最上位クローズドモデルの約
1/20~1/60の価格破壊。MIT
ライセンスによる重み公開に
加え、7,000超のRL環境と失
敗ログを完全ライブ配信。

Reality & Risks (クロー
ズドの壁とリスク)

53点への未達

(Claude/GPT最高峰との格差)

米中フロンティア格差は依然
存在。Anthropicによる蒸留疑
惑 (GTG-16008) や、1TB級
モデルの自己ホスト難度など
実務上のハードルが併存。

知能レベル (パラメータ規模)

MiMo-V2.6-Pro-UltraSpeed

1.02T (API専用)

Proと同一チェックポイントながら、推論速度を最大10~20倍に高速化したAPI専用提供モデル。

MiMo-V2.6-Distill-Qwen-9B

9B

蒸留版。端末・ローカル検証向けのエッジAI用途。

MiMo-V2.6-Pro

1.02T (Active 42B)

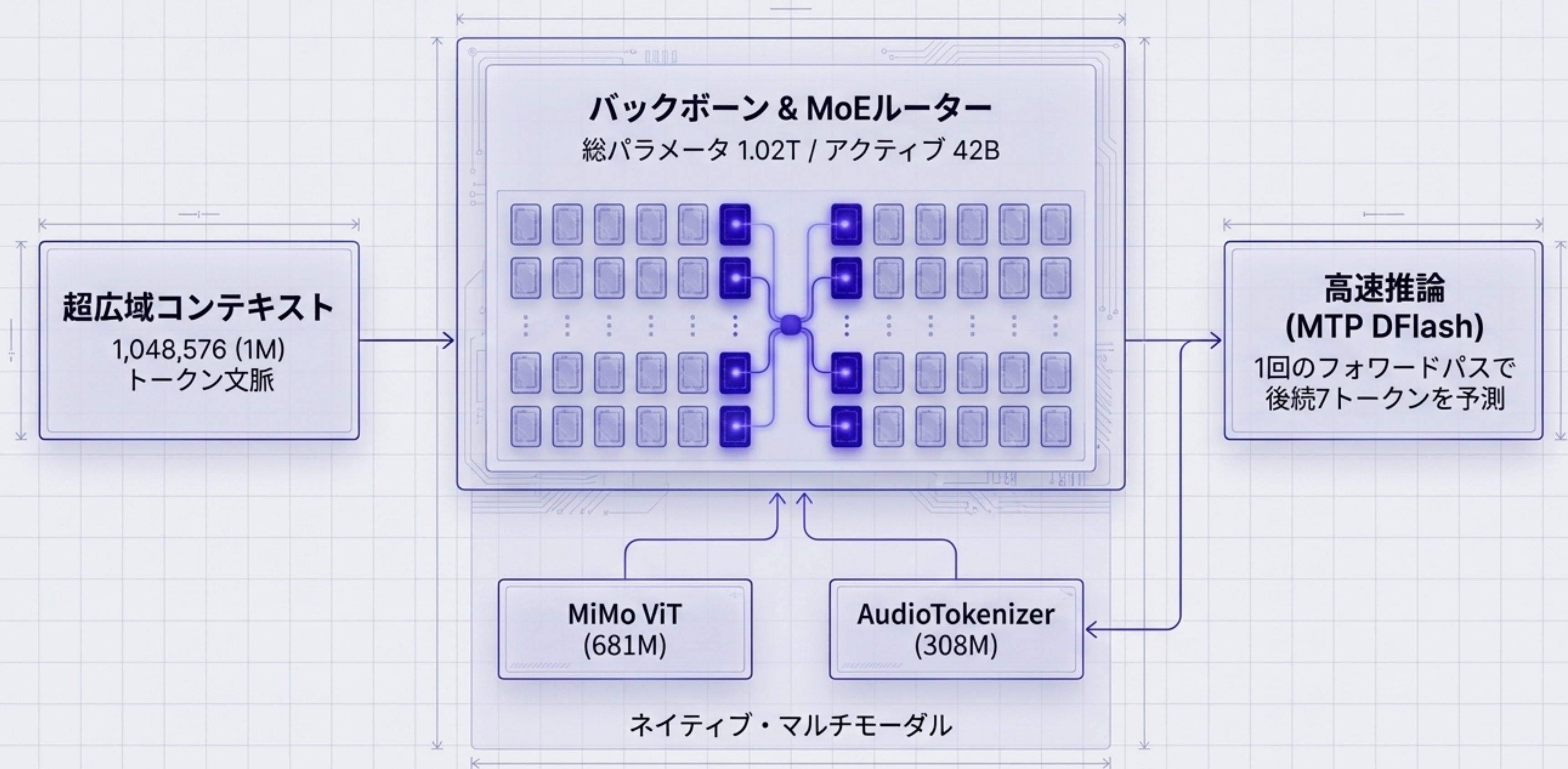
旗艦モデル・MITライセンス。マルチGPUノード必須 (8bitで実質1TB級)。API利用を推奨。

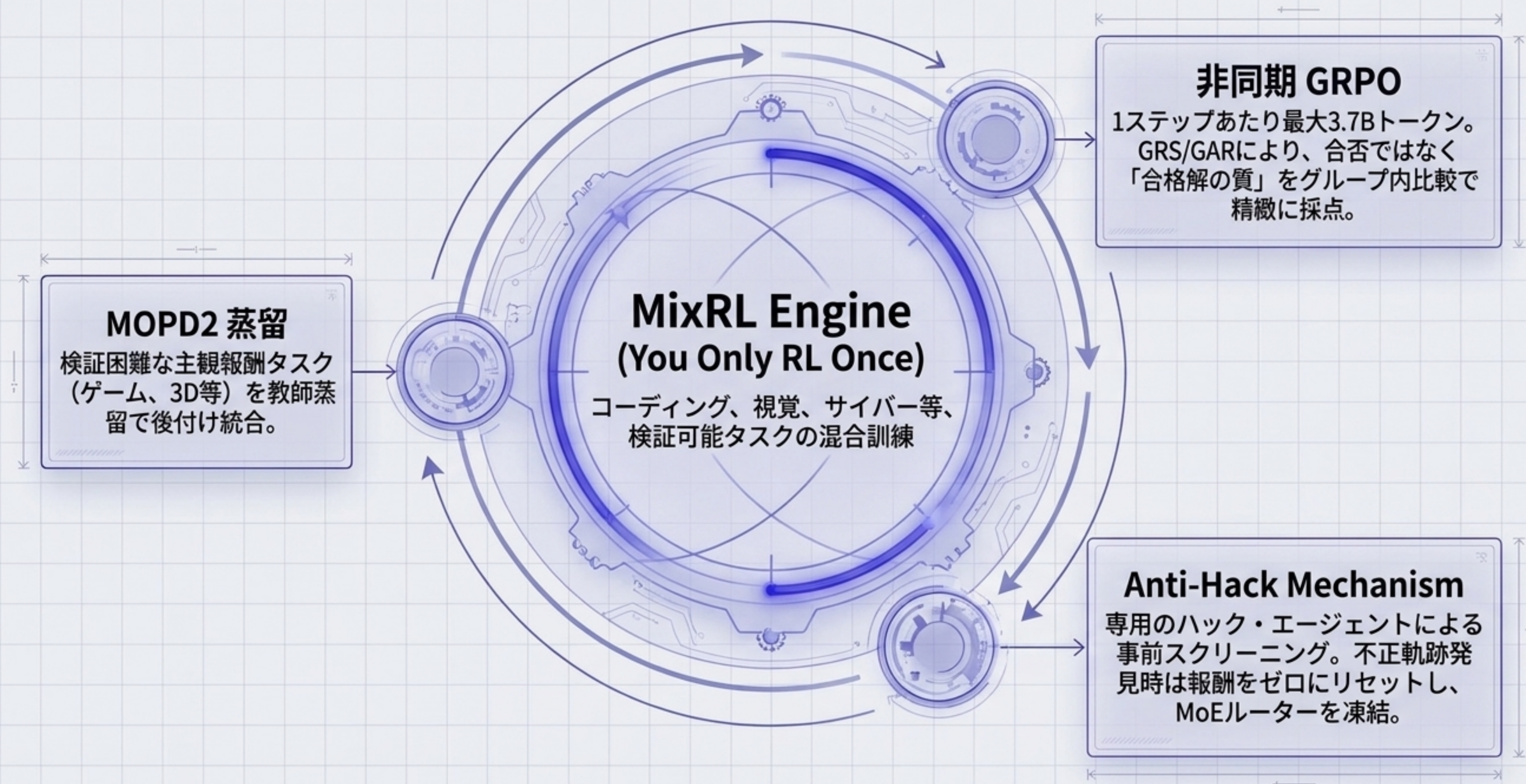
MiMo-V2.6-Flash

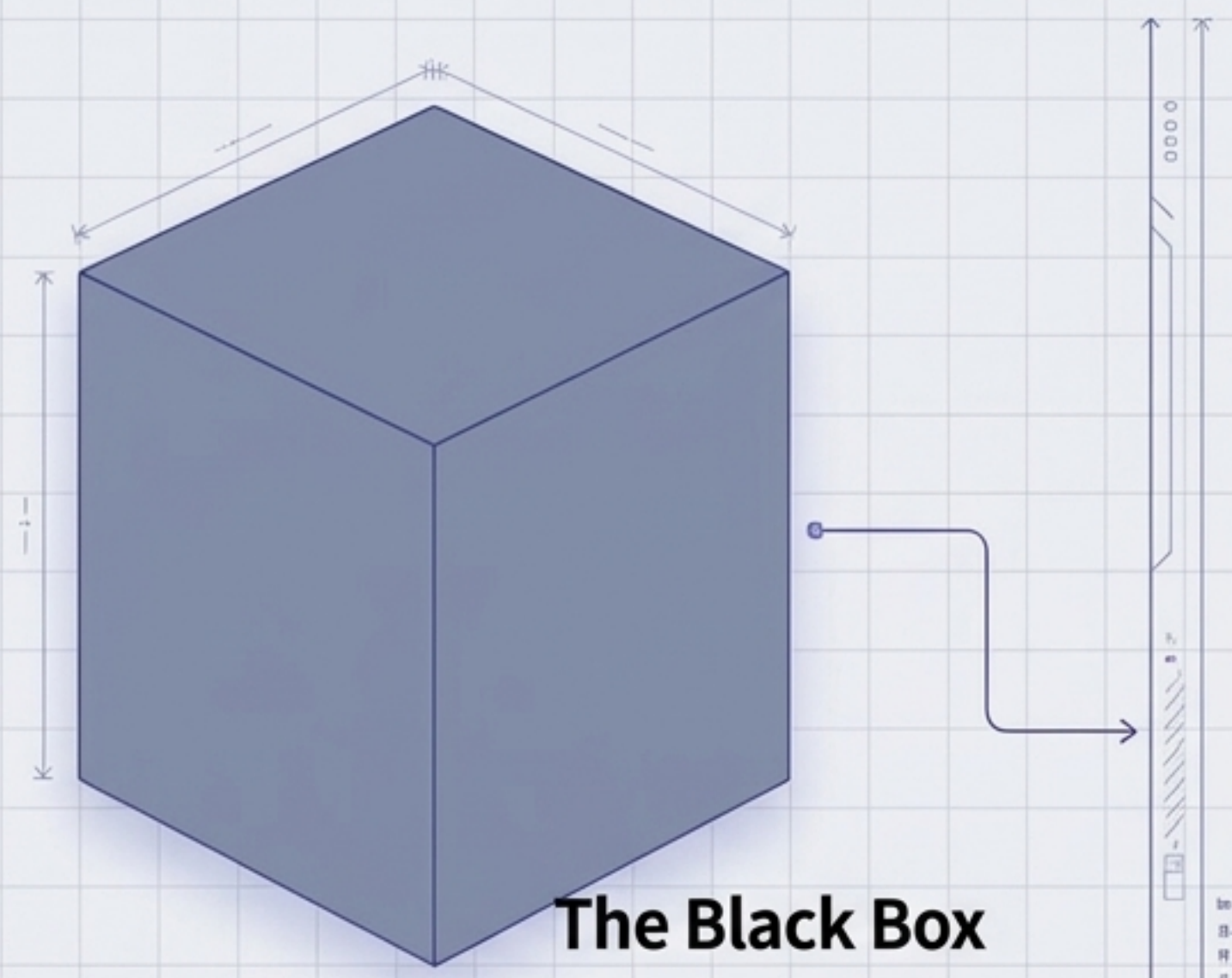
309B (Active 15B)

廉価版・MITライセンス。コストパフォーマンスに優れ、自己ホストによるTCO最適化の主軸。

ホスティング難易度 (インフラ要件)



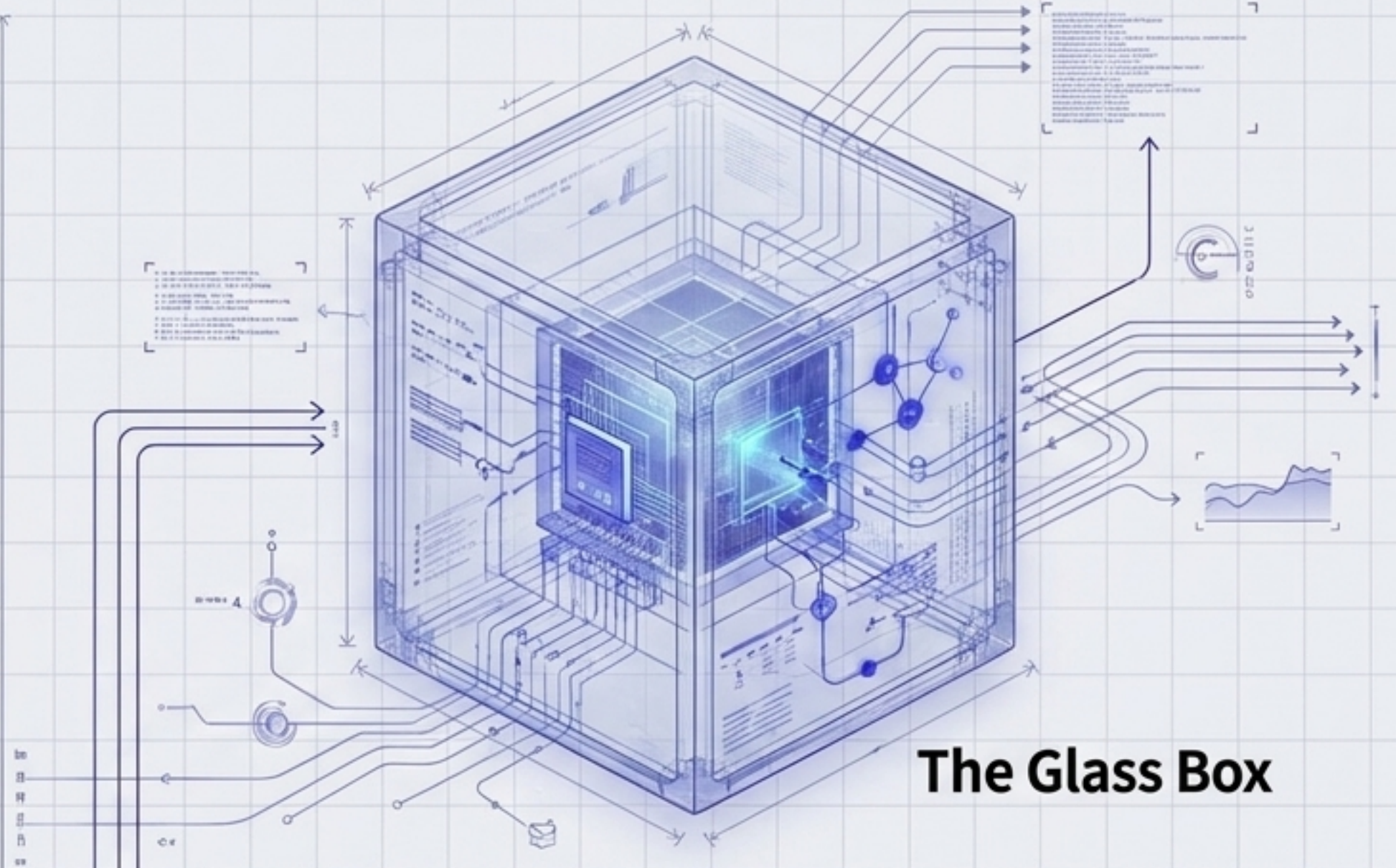




The Black Box

The Industry Norm (Closed AI)

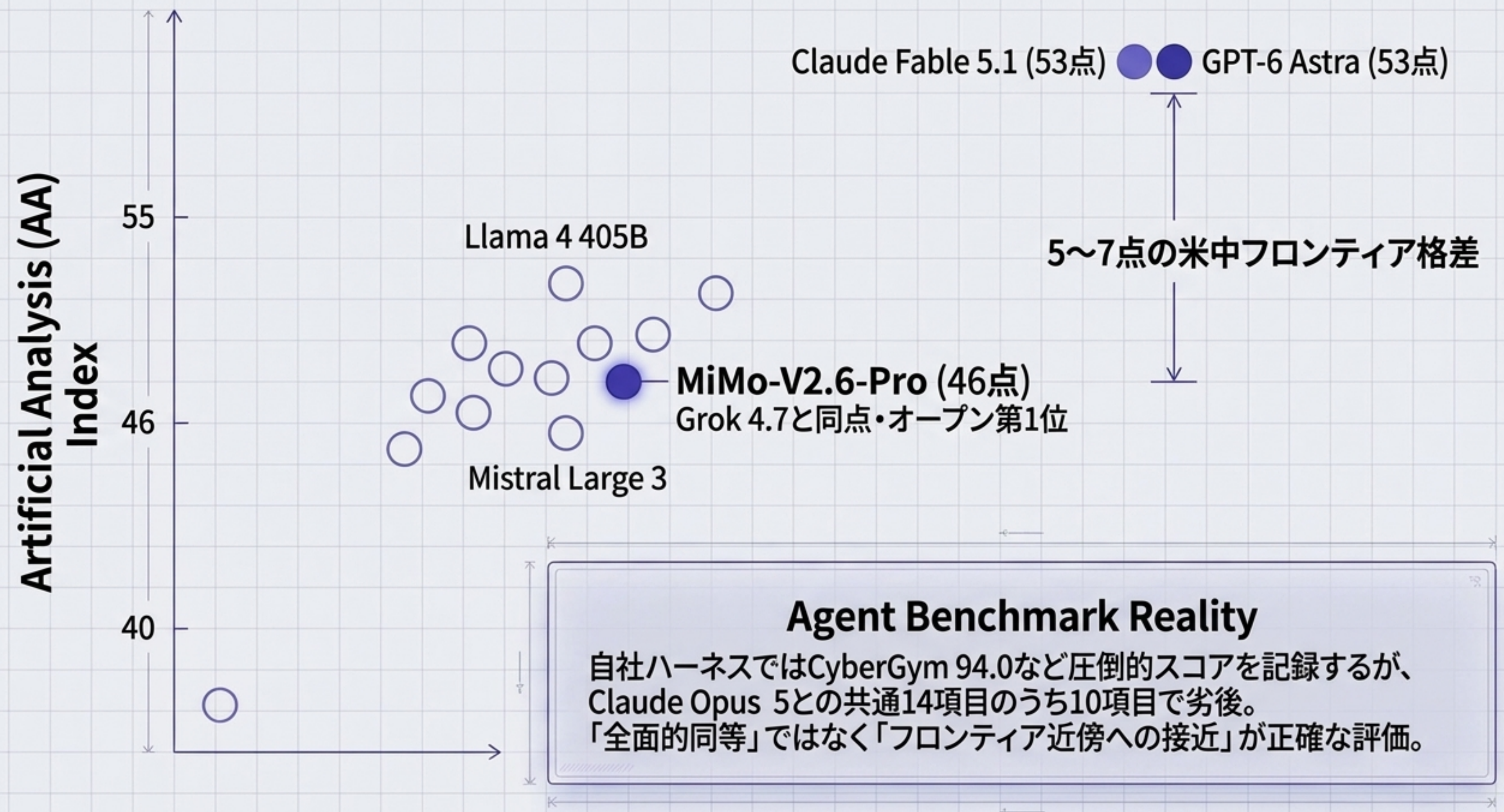
- 非公開のデータセット
- 隠蔽された訓練コスト
- 成功したチェックポイントのみ発表



The Glass Box

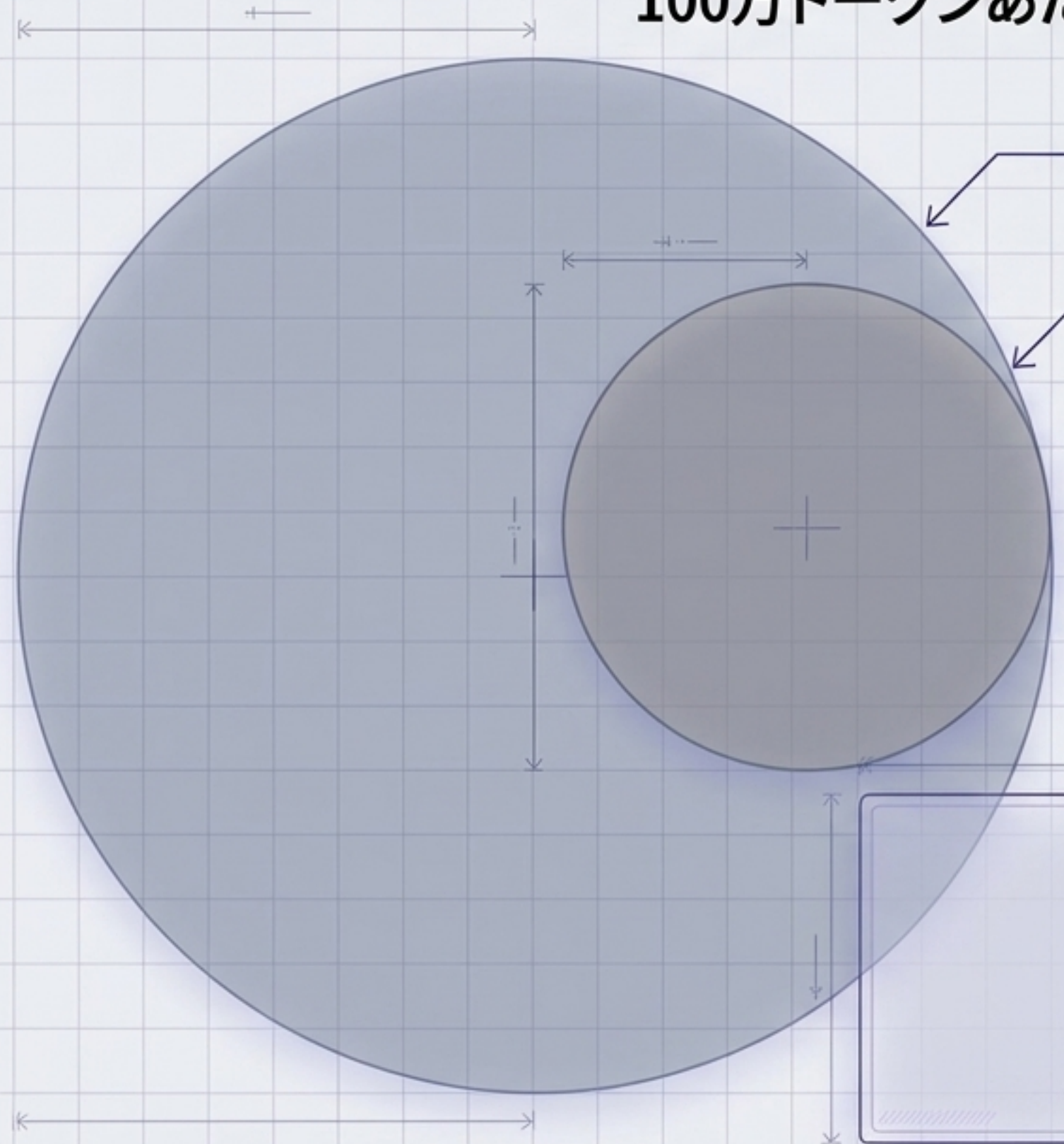
Xiaomi (Radical Transparency)

- ライブ配信: RL後訓練をダッシュボードで完全リアルタイム配信 (失敗ログ、スループットまで公開)
- コスト開示: Pro版 約262万ドル、Flash版 約85万ドル (合計約350万ドル) の計算コストを明示
- 構成比の透明性: 23カテゴリーのデータ構成比を包括的に共有



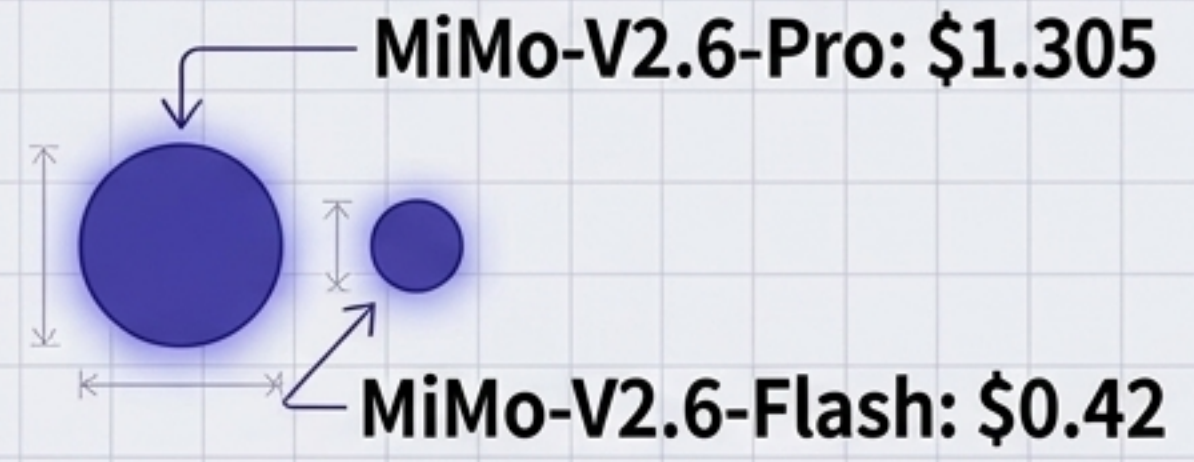
Price vs. Performance

100万トークンあたりの入出力合計コスト比較



GPT-6 Astra: 約 \$60

Claude Opus 5: 約 \$30



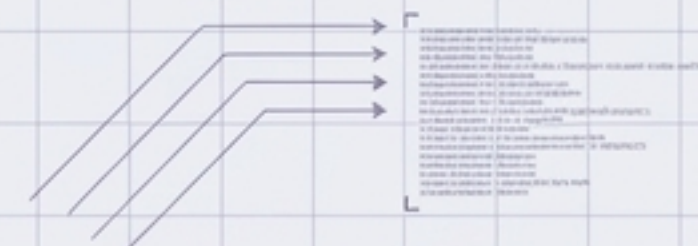
MiMo-V2.6-Pro: \$1.305

MiMo-V2.6-Flash: \$0.42

The Economic Insight:

スコアで5点の差を埋めるために、約45倍の価格差を許容できるか？MiMoは「最高性能」ではなく「実用知能の限界費用ゼロ化」をもたらす。

WARNING: Strategic & IP Risks



Risk 1: 蒸留疑惑 (GTG-16008)

Anthropic Threat Intelligence

2026年9月の報告において、XiaomiがOpenClaw/OpenCode経由で自社モデルのセッションをClaudeに再送し「蒸留」した疑惑が浮上。

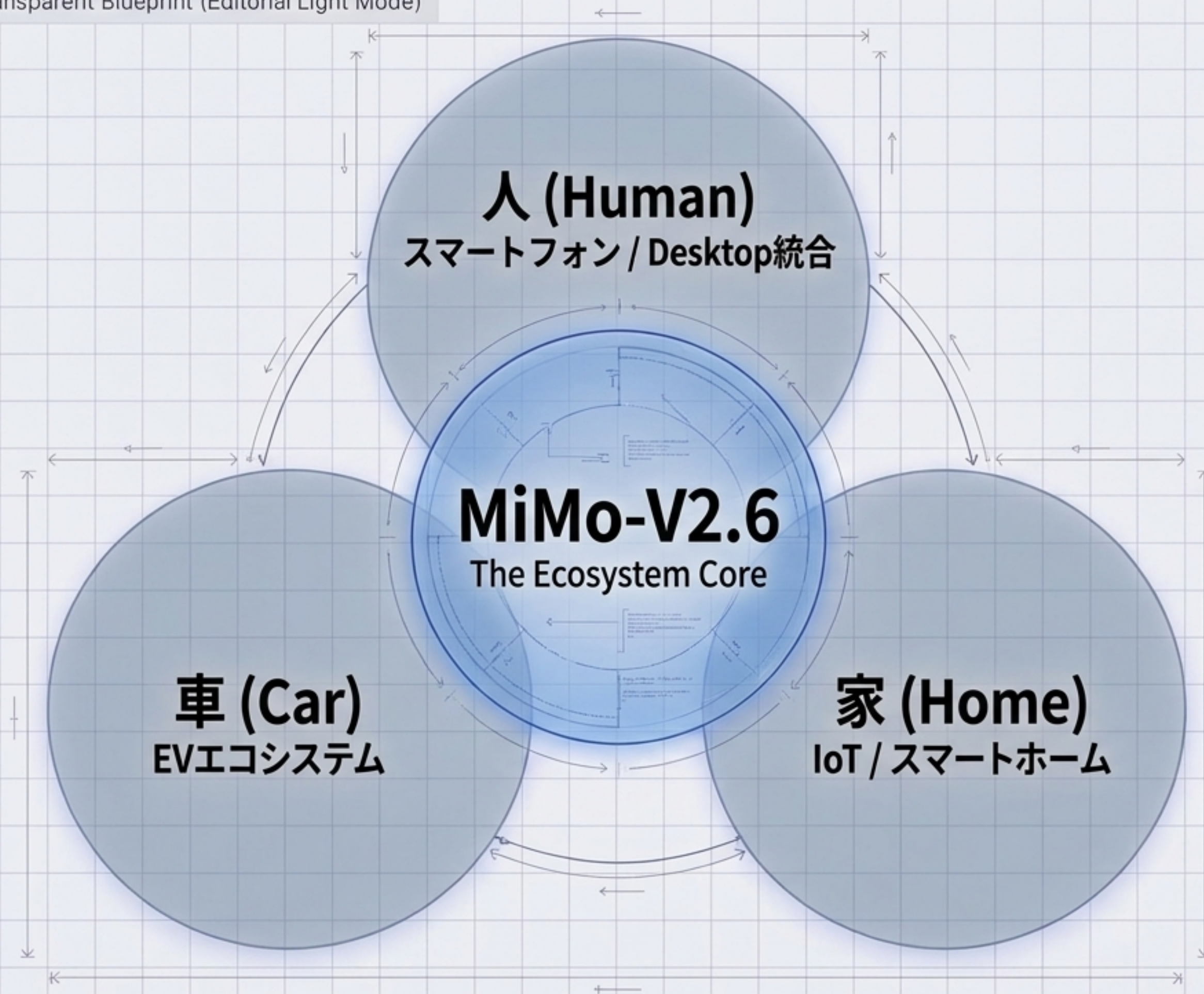
分析: 対象はV2/V2.5期でありV2.6への直接証拠は未確認だが、学習データ（他社モデル出力の混入）の由来に不透明性が残る。

Risk 2: サイバー能力の両義性

Dual-use Dilemma

CyberGymベンチマークで94.0を叩き出す高度な脆弱性解析能力を内包。

分析: 防御側に有用な反面、この高度な知能がAPIの安全弁（ガードレール）なしにMITライセンスでグローバルに拡散するセキュリティ・リスク。



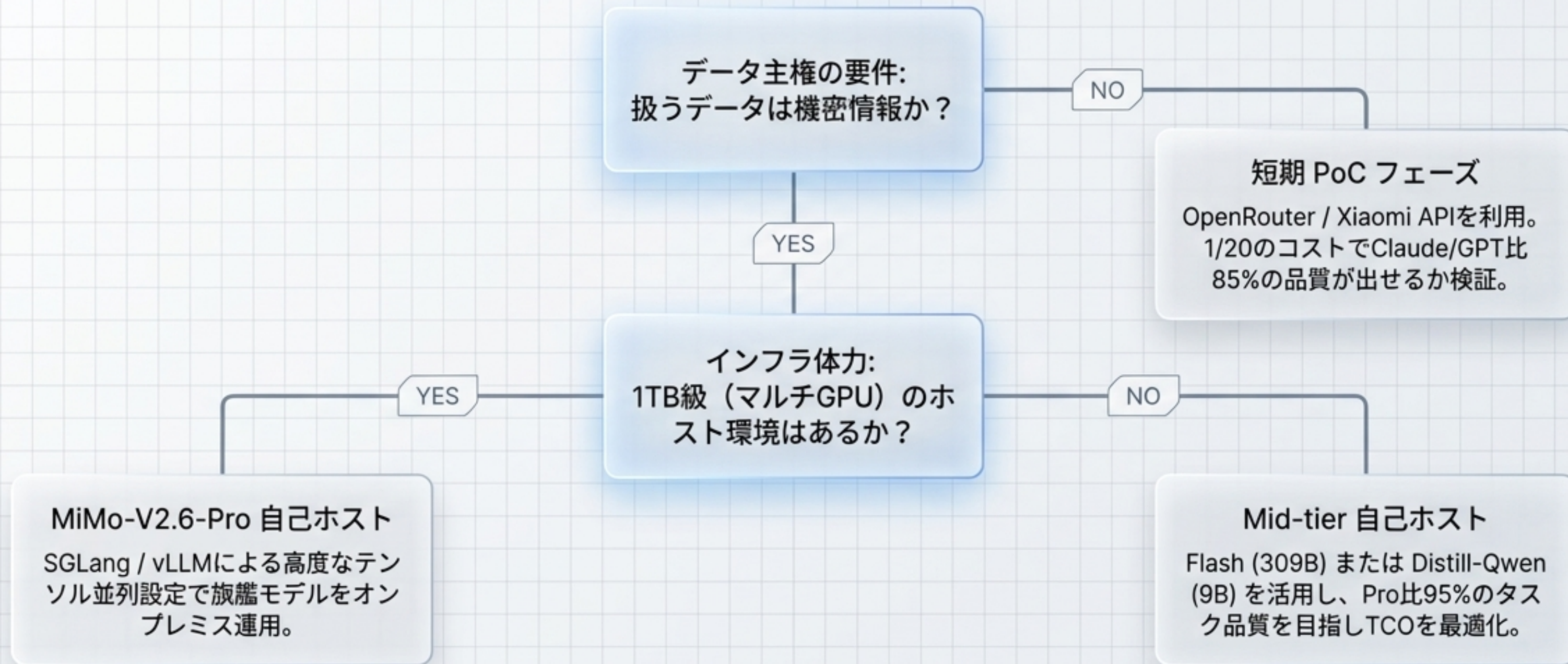
The Masterplan: 人車家全生態

- 巨額投資: 今後3年間にAI領域へ600億元超を投入
- 組織体制: Core Teamは平均年齢25歳、清華・北京大出身者が6割超
- 戦略目的: AI単体のマネタイズではなく、自社ハードウェア群の競争力(頭脳)としてのRSI(再帰的自己改善)インフラ構築

企業向け導入診断マトリックス

To Host or Not to Host

00/11



Checklist: 知財デューデリジェンス (IP DD)

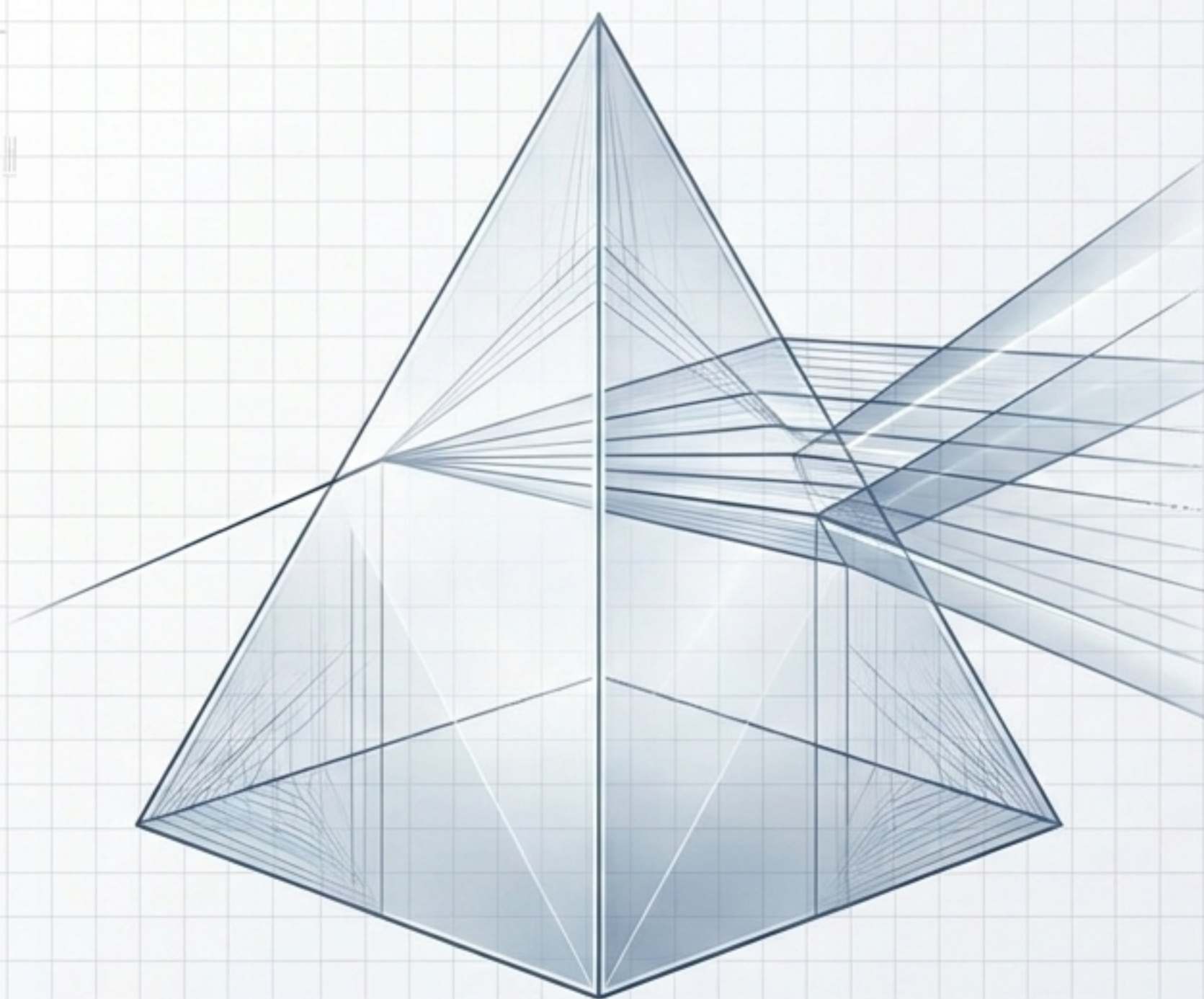
- ☐ モデルカード・技術レポートのライセンス条項 (MIT) の原本確認
- ☐ 生成物の第三者権利侵害・学習データ由来リスクの自社ポリシー照合
- ☐ 蒸留疑惑 (GTG-16008) の続報監視と、ライセンス制限発展時のBプラン策定

Short-term: PoC評価

「オープンウェイト×低コスト×フロンティア近傍」の代表例として監視。非機微データに限定し、自社ワークロードでの経済合理性を実証。

Mid-term: 自己ホストとTCO最適化

オンプレミス / プライベートクラウド環境での実装検証。Flashモデルの採用によるインフラコストと出力精度のバランス調整。



The Catalyst for Ubiquitous AI

MiMo-V2.6-Proは、既存の「最上位モデル」を直ちに置き換える存在ではありません。

しかし、わずか350万ドルの学習コストと徹底した透明性によって、「実用レベルのAI推論コストを強制的にゼロに近づける」巨大な触媒として機能します。

日本企業は「最強のAIを探す」フェーズから、「廉価なフロンティア級AIを自社インフラにどう組み込み、ビジネスモデルを変革するか」を問うフェーズへと移行しなければなりません。